

1 研究内容

鹿角地域には、国内・県内産地との差別化をはかり生産を行っている農作物がある。その一つは「北限の桃」であり、平成 26 年度の研究によって経営形態と流通構造について明らかにすることができた。また、平成 27 年度は首都圏で人気が出てきている低アミロース米である「淡雪こまち」を対象として調査を行った。今年度は、ブランド農産物の中でも畜産にスポットをあて、「幻の和牛」ともよばれる日本短角種の「かづの牛」について、これまでと同様の手法で調査を実施することにした。

2 これまでの学習活動

・かづの牛について知る

秋田県畜産農業協同組合かづの牛銘柄強化戦略特命部長 兼 鹿角支所長の赤川肇さんより「かづの牛ブランドの現状と展望について」と題して講話をしていただいた。講話では、鉾山と南部牛の歴史や、生産と販売の推移について理解することができた。

・飼育の特徴

鹿角地域における日本短角種の飼育の特徴は、5 月～10 月に実施されている放牧飼育にある。放牧期間中は飼養管理が軽減され、他の農作業（稲作・畑作）に専念できる。11 月～4 月は舎内飼育がなされる。この時期は農閑期であり、夏に収穫した牧草や稲わらを給与する。この一連の飼育方法は、年間を通じて舎内飼育を行うより低コストとなる。

鹿角地域での放牧の運営は、牧野組合が運営する6つの牧場で行われていた。これを 1999（平成 11）年に4つに集約し、鹿角公共牧野を組織した。鹿角公共牧野は牧場管理、衛生検査、維持管理、草地改良等の業務を担っている。4つの牧場では、黒毛、褐毛、短角の成牛 230 頭（短角は 108 頭）、育成 29 頭（短角 12 頭）を放牧している。なお、牧場で飼養する種雄牛は、秋田県畜産農業協同組合鹿角支所が集約管理している。

・公共牧野の見学

公共牧野の中でも面積が最大であり、アクセスのしやすい熊取平公共牧野を見学する予定であった。しかし、見学を検討していた時期に鹿角市ではクマによる人的被害が相次いだ。また公共牧野に隣接するエリアがクマ出没地域でもあったため、担当教員のみが公共牧野を見学した。その様子を撮影した動画を全員で観ることで共有を図った。

3 これからの展開

- ・アンケート調査の実施
- ・かづの畜産まつりへの参加（10 月 16 日）
- ・鹿角家畜市場での競りの見学（10 月 25 日）
- ・研究のまとめ



写真1 かづの牛キャラクター「ベコタン」



写真2 熊取平公共牧野で飼育されるかづの牛